

<全体分析>

試験時間 75 分

解答形式

記述・論述・描図・選択・マーク

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

設問数の増加は少なかったが、難しい設問が増え、全体的に難易度が上がった。

出題の特徴や昨年との変更点

解答を記述させる設問に加えて、図やグラフを描図させる設問が出題された。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[I]	空所補充・問形式 (記述・描図)	力学 (平面内の2粒子の衝突)	物理	よく知られている2粒子の衝突現象を、重心から見た相対速度で考えさせる問題である。I-Aの作図では、重心速度がx軸方向であり、重心速度ベクトルの終点が、粒子A、Bの速度ベクトルの終点を結んだ直線上にあることに気付くのがポイントである。	やや難
[II]	空所補充 (記述)	電磁気 (直流回路・交流回路)	物理	直流電源および交流電源を用いたブリッジ回路の問題である。電源が直流の場合の問題は完答する必要がある。電源が交流の場合の問題は、題意を正しく汲み取って、解き進めていかなければならない。	難
[III]	空所補充・問形式 (記述・描図)	熱 (気体の状態変化)	物理	前半は、1部屋の気体に関する基本的な問題である。後半は、ばねで区切られた2部屋のそれぞれ気体の変化を扱った問題である。III-Aでは、体積変化の和と圧力変化が比例することに気付き、グラフを直線で描かなければならない。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

入試で見慣れない問題が一部出題されることもあるので、教科書の基礎事項を十分理解した上で、応用力を養っておく必要がある。